

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市植苗51番地156		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0153680046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーはウトナイ湖や千歳空港まで約10分の位置にあり、自然豊かな環境のもと、ホーム開設時から「家庭的な雰囲気」を大切にしながら法人が目指す「支え合って共に生きる」のケア実践に努めています。
 ハーモニーでは認知症ケアの基本姿勢として個々人のペースや思いやりに寄り添い、安心した気持ちでお過ごしいただけるように努めております。日々の生活においては、思い思いのスタイルで穏やかな暮らしに向けた関わりを心掛け、季節に応じた行事や法人敷地内の散歩、売店での買い物、知的障害者施設で育成販売している300種類を超える花を身近で見ることでもできる環境にあり、四季折々の季節感を体験でき生き生きとした生活を過ごすことができます。
 法人関係施設で行う秋のお祭り行事は皆さんが参加を楽しみにしている行事でありご家族や利用者の方々を楽しめる場を提供しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、広大な敷地に複数の福祉事業を展開している運営法人が開設して11年が経過しています。系列の事業所とは研修や行事等で交流があり、緊急時には協力体制が確立されています。ホームは、地域密着型サービスの意義と社会的役割を理解し、サービスの質の向上を目指しています。地域の方々からは行事や運営推進会議への参加並びに非常時の協力等でホームへの理解と支援をいただいています。利用者や職員は暖かみのある関係性を築き、法人理念である「支え合って共に生きる」和やかな生活を作り上げています。職員は一人ひとり個人目標を掲げ、理念や目標の実践に努めている「グループホーム ハーモニー」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人が目指す「支え合って共に生きる」を利用者のサービス提供場面で活かせるように、利用者、ご家族そして職員が支え合って利用者の認知症と向き合って生活支援につとめている。	共感共生・共学共働・共励共働・共慈共愛・共支共老を5本の柱とした法人理念を職員は共有しつつホーム独自のケア理念の策定を検討しています。職員は「支え合って共に生きている」かを確認しながらケアサービスに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設と合同で花火大会を実施したり、ホーム利用者、他施設利用者・職員等々と一緒になり、花火大会、地元勇払千人太鼓ボランティアとの交流やスナップ写真を撮ったり地域交流を実施している。	隣接の福祉施設で行われるボランティアの芸能披露や法人主催の祭りには大勢の地域の方の参加があります。ホームの花火大会には地域の子供達の参加もあり、利用者が地域の文化祭へ手芸を出展するなど交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の日を認知してもらうため、ハーモニーを中心に隣接介護施設の見学会を実施し10名の町内住民が参加し認知症の理解と介護現場の実際と認知症の理解をしてもらった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果を公表しご家族アンケート結果も公表しハーモニーの事業活動を報告しながら、委員からの建設的な意見や町内会への情報提供もしていただきながら町内住民にハーモニーの利用者の生活状況を理解してもらっている。施設見学会実施し防災体制づくりの協力。	会議は定期的に行われ地域代表者4名、行政や地域包括支援センター職員、利用者や家族代表で構成され、ホームの実態や防災対策、外部評価結果や家族アンケートの結果を伝え、ホームの質の確保に向けて多様な意見、提案、情報をいただいています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に苫小牧市保健福祉部介護福祉課からの派遣をいただいている。会員からも福祉行政の質問が出たり情報交換が得られている。またグループホーム協会の研修にも市介護福祉課からの監査状況や市の福祉行政の説明もあり、連携をはかっている。	行政とは、会議や研修会、報告、情報交換等で協力体制が構築されています。土石流対策地域に位置していますが、行政の働きかけで課題であった非常時に於ける送電被害は回避されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人的取り組みの一つであり、隣接する東胆振ケアセンター開催の身体拘束委員会に参加または情報を得ながら身体拘束のケアをしない「寄添いケア」を実践している。	身体拘束廃止に関わる外部研修や法人研修に参加した職員からの伝達講習等で、具体的な行為とその弊害について共通認識を図っています。不適切な行為がないよう、管理者や職員間でも注意を促し正しい理解に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修、新人研修等で職員に虐待防止について周知している。また新聞情報等マスコミから入手した虐待について、随時説明と防止に対して自分達のサービス対応時の行為を示し、事例をあげながら虐待防止に努める。サービス適正化委員会設置についても掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人新人研修で学ぶ機会がある。また年間研修計画にも独立して権利擁護に対する研修を継続的に含まれている。法人が複合法人であることもあり、障害者、高齢者、認知症等々の事例を通じて職員に周知をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られたご家族、入所時説明等の場面において重要事項説明書や利用契約書の説明を実施し、利用にあたり疑問・不安を取り除いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が各種行事に参加されたり、来所された時等の機会をとらえて、ご家族とのコミュニケーションを図っていることから、普段から色々に意見、要望が寄せられており、出来るところから実施している。運営推進委員会の参加をとおして、サービス提供内容も話されている事に驚ろかれた場面もあった。	家族には来訪時や電話、家族へのコメント欄を設けている「ほっかほか通信」で利用者の日常を伝えています。利用者や家族との関わりや家族アンケートから意向の把握に努め、課題は目標達成計画に組み入れるなど改善に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面談時、ケア会議の席上で職員から意見、要望がきかれるようになった。できるもの、できないもの、計画的に実施するもの等を職員の話し合いの中で意見交換をしている。	ホーム長や管理者は、職員が話しやすい雰囲気作りに努めています。日々の業務や会議、個人面談等で職員の意見や提案を傾聴し、外出行事等のサービスに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を職員に機会を作りながら、試算表を開示して内容を説明している。働く事と要望・改善は一緒であることを説明しながら、責任ある職員の育成をしている。介護報酬に左右される案件もあるが、現実面を説明しながらグループホームの方向性や使命感にも理解をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修体制とスキルアップ研修や人事考課をとおして、自己目標と達成度を確認しながら双方合意の評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会の他日振地区、北海道グループホーム協会等の研修会に参加し交流を図り、サービス向上に繋げる努力をしている。持ち回りの研修発表もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人との面談の機会を持ち、ご本人の意向を受け止める努力と希望にお応えする努力をしている。また少しの変化もご家族様と連絡を取りながらご本人が不安にならないように対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族・ご本人との面談の機会を持ち、ご本人の意向を受け止める努力と希望にお応えする努力をしている。また少しの変化もご家族様と連絡を取りながらご本人の対応をしている。ご家族の情報提供と近況報告も機会あるごとに実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況変化の連絡、対応の相談実施など、サービス内容を変更する又は対応を変えてみる場合も細かく打ち合わせをさせていただいている。また医療機関との連携や法人内の施設機能を活かしたサービス提供もご提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方にはその人の合意を得て、ご負担のかからない程度のお手伝い(テーブル拭き、食材の下ごしらえ、オシボリたたみ、カーテンの開閉、盛り付け、味見等々)をお願いしている。またお手伝いをいただいた方へは「ありがとう」の一言をそえる習慣になり、利用者も達成感を覚え「どういたしまして」が返ってくる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にコミュニケーションをとり、行事参加の御案内を出す、近況報告や確認事項でのやり取りをしながらご家族との交流をはかっている。また必要によりご家族に面会をお願いしたり、ご本人の精神的安定のためにご家族の支援を求めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時にご家族の思い出の写真、馴染みのタンス、衣類等々の持ち込みをお願いしている。また入所後もご家族の面会を可能な限りお願いし、孤独感を抱かないようにしている。居室には思い出の古い写真を飾ったり、回想を利用し存在感を自覚してもらうことも実施している。	利用者とは積極的にコミュニケーションを取り、これまでに培って来た社会的な背景を把握しています。家族の協力も得ながら関係継続の支援に努めています。元の職場を尋ねたり、懐かしい場所へはドライブを兼ね外出行事で訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を配慮しながら食席をの位置、外出グループメンバー構成にも配慮しながら、利用者間の関わり合いにつとめている。役割分担の取りあいもあることから上手に依頼調整を職員がしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族、職員も顔を出す環境もあり、利用者も喜んでいる。また隣接した介護施設に異動した利用者の方へも、職員や利用者が伺うことも実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人ご家族の情報のもと日頃の思いをくみ取る努力をしている。買い物行事にご本人の実家までシヤモを買いにいき楽しい兄弟姉妹交流を実現した。また、施設環境を活しハウス内の花を見に散歩がてら観賞した。	契約時に利用者や家族から生活歴や暮らし方への要望を収集し、さらに日々の関わりの中で情報を蓄積しています。大切な人に会いたいと外出を希望する利用者の思いに応え、職員は何時間でも一緒に探し続けるなど心身の寄り添いに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等を理解した上で、ご本人と話すことを配慮している。入所前後の環境変化の戸惑いをあせらず寄添いの姿勢で優しく対応する努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活ぶりを記録にとり、日々の変化が全職員が理解と把握するなど寄添いの支援姿勢につとめている。生活習慣が抜けきれない利用者に対しては、受容的な態度で健康に害さない程度に対応している。喫煙、就寝時間		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々人・認知症の程度、嗜好、行動手段等々を前提に日常の生活支援をケア会議等で話し合い、ケアプランにも反映している。中でも誕生日の主食は誕生日者の意見を聞いて実施している。この行為一つで嗜好で他利用者との会話が弾み、ほほえましい光景もある。	利用者や家族からは、関わりの中での会話や表情から生活に対する要望を汲み取っています。日々の記録や医療関係者の意見、職員の気付き等を踏まえ、職員全員で協議し利用者にとって最適な支援になるよう介護計画を立案しています。	目標計画が日々の記録で容易に確認でき、見直し時にも生かされる効果的な介護計画と個人記録の連動への取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を中心に、日々の経過記録と観察経過等の生活支援状況をケア介護等で検討したり、対応の変更を実施し、ご本人の精神的負担軽減を心掛けている。またご家族からの要望・希望も聞き入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内施設と連携を図り、医療、リハビリ、各種のクラブ活動へのオープン参加していただいている。生活環境の変化と幅を提供し、生きがいと達成感に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運動公園、駅、ウトナイ湖、道の駅などが近くにあり、散歩、ミニドライブを実施している。また、法人敷地内に売店があり、気軽に配物ができる環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人全体で訪問歯科診療(毎週一回)と精神科医師(月2回)による往診がありご本人とご家族からも喜ばれている。また主治医を中心に医療連携を図っているが、ご家族の希望や医師の指示で他の専門病院への紹介を受けている。	利用以前のかかりつけ医や専門医への受診は、家族対応を基本としていますが、困難な時はホームが支援しています。歯科医や精神科医の訪問診療、さらに緊急時には、協力医や系列の施設に常勤の医師や看護師の協力も得られ、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内で看護師雇用はしていないが、隣接する介護施設から、夜間帯の緊急対応(転倒、裂傷)や健康上の適切なアドバイスや看護師業務も協力している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要によりご家族の承諾を得て、主治医を変更して通院、入退院の連携を図っている。入院の際は、サマリーを提出し日常生活の様子にも連携をはかっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には将来的なケースを確認している。現在医療提携加算を申請していないが、医療機関の同行と職員の資質向上とターミナルの理解ができた場合は実施したいと考えている。最近苦情となっているケースも聞くので法人と協議しながら検討していく。	重篤時に於けるホームの対応は、利用契約書に基づいて説明をしています。ホームとして最大限の支援に努めていますが、常時医療が必要になった時点で医療機関か他の施設への移行を提案しています。環境を整えば、最後までホームで暮らせる支援を考慮しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的に急変は隣接施設に協力をお願いしている。災害時の緊急対応をするべく、運営推進委員会メンバーや町内会への働きかけのもと防災体制を整えつつある。応急手当等の訓練・研修は職員異動もあることから今後計画化していく。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の総合防災訓練、法人内地震想定訓練に参加している。また防災体制も施設近所の住民参加を協力要請中であり、万が一の避難場所での見守りと安全確保をお願いすることを考えている。	昼夜想定避難訓練を年4回実施し、地震想定法人主催の訓練にも参加しています。停電に備え、消灯の中で「首下げライト」を着けたり、非常用階段避難車を使用するなど実践的訓練を行っています。非常時には、地域の方や法人の協力が得られます。	防災に対しては職員の意識統一を図っていますが、今後は消防署の指導を受けての訓練を実施し、さらなる防災対策への取り組みと地域の方を含んだ連絡網の作成、家族の方へ避難場所の周知も望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、態度、挨拶等は法人の取組としてマナートレーナーを通じて職場改善を実施している。またホーム内では職員間の牽制もできつつあり、気付いたことは上司にあがっており、適時注意指導している。	接遇や倫理観等は、法人主催の研修に参加し学びを得ています。排泄時や入浴時は同性介助を基本とし、衛生用品も整理タンスに収納するなど、羞恥心にも配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄添いの中から、希望や思いを職員が感じ取り、ケア支援に取り入れ評価見直しに繋げている。ご本人の要望や希望がかなう支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望に沿うように努めているが、その日の状況や勤務状況により対応しきれないこともあるが、外部ボランティアの活用働きかけ、楽しさや要望に応じていく努力をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に利用者の身だしなみに注意し、清潔感を保つように配慮している。外出時には特に注意を払い、ご家族の了承を得て、衣類の替え買いを実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り利用者の了解と納得を得て、無理強いせず、食材の下ごしらえ、おしぼり配り、テーブル拭きなどをお願いしている。	献立は系列事業所の栄養士が作成し、食材は配達されています。各ユニットは、ストックしている食材の活用や買い物に行って献立をアレンジしたり、行事食や外食等で変化を付けています。利用者は職員と食事時間を共有し会話を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取を日々管理し、必要量の摂取ができるようにうながし、必要により水分内容をお茶、番茶、ジュース等変化をつけたり、トロミを溶かし摂取していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じ、声かけや見守り、また介助にて食事後の歯磨きを実施し、入歯使用者も食後に外して介助している。また歯科の訪問診療を実施していることから口腔ケアについてはご家族から安心をいただいている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施しご本人の自尊心を損なわないように排泄支援をしている。極力布パンツを使用してもらいご本人の意向を尊重して対応し、しつこく排泄誘導を最優先とはせず、自覚と気づきを大切にしている。	職員は利用者の自主性を尊重し、自らトイレへ行くことを見守っています。声掛けが必要な場合は、排泄チェック表を参考にトイレへ誘導し、排泄の失敗や衛生用品の使用軽減になっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取への促しや、ヨーグルト、乳製品など示す摂取内容を工夫や朝の体操や運動もあわせて便秘予防につとめている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のペースに合わせて誘い方の工夫、ご家族の協力をえながら実施している。どうしても入浴拒否した場合は全身清拭を実施し衛生面保ってもらっている。	毎日午後から入浴出来る環境を整えています。週2～3回の入浴支援を行っていますが、入浴日や回数は決めず、利用者の自己決定の場面作りに努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、ホールと自室間の出入りは束縛することなく自由にベッドで横になったり、くつろいでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報提供書を確認しながら投薬支援を実施している。(薬名称、効能)また状況変化をご家族、医師に相談して対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花札、買い物、ドライブ、行事、外食、演歌・歌謡曲や隣接施設(東胆振ケアセンター)老健での習字、音楽療法の参加を促す。また日常的にはコーヒータムを通しての会話の広がりコミュニケーションを図れるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩、売店での買い物、希望を取り入れての大型店でのショッピングの対応、ミニドライブで近郊で気分転換とアイスクリームを食べたり、また食材を買い物に鶴川まで出かけ家族交流等々を可能な限り実施している。	散歩を兼ね、法人敷地内にある売店で買い物をしたり、園芸ハウスで花を觀賞したり、隣接の事業所での催事（ボランティア、クラブ活動等）に出かけています。時には、家族の協力を得ながら花見、紅葉狩り、ウトナイ湖に白鳥を見に行き、五感刺激を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布がないと不安定な人は自己管理しているが、最近では何処へしまい込んだのか分からず、深夜まで探す方、誰かが持っていった・・・という人が多くなっているが取り上げたりはせず、寄添いの視点で一緒に探している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応できるかたは自由に電話を使用させていただいている。希望があればその都度電話をかけたり、代筆して意思疎通の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感には気をつけて室内を演出し、四季を視覚で支援している。また採光のある場所にソファ・椅子を配置し外の風景の四季折々を感じてもらっている。夏はテラスに椅子を出し、外の樹木のゆらぎを感じ取ってもらい、心地よい時間をすごしてもらっている。	ホームは自然豊かな環境に位置しており、利用者は共用空間の窓いっぱい広がる四季折々に変化する山々の表情と向かい合い、ゆっくりゆったりと生活しています。採光や温湿度、清掃に配慮があり、季節に合わせた装飾品等も趣ある雰囲気を出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、テラスに椅子やソファを置き、無心になれる環境を整えている。利用者の方は思い思いに座り、外の景色をみながら会話がはずんでいるようである。またテラスに出て、顔みしりの職員が通ると遠くから手を振り、コミュニケーションを図っている光景を目にする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等は大きいもの以外は持ち込みを勧めている。またご家族と相談しながら配置を考えたり、転倒の危険があればご本人やご家族と相談して撤去もし、安全で住みやすい空間環境づくりに配慮している。	表札が掲げられている居間には洗面台やクローゼットが設置され、生活しやすい環境になっています。各居室にはベット、テレビ、冷蔵庫、タンス、加湿器などが持ち込まれ動線に配慮して配置しています。壁には記念写真や芸能人のポスターが貼られたり、利用者の手芸作品が飾られ、安らぎのある居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入口、には場所を分かるように利用者のお名前や目印を表示している。また状態変化により手摺を設置したり転倒防止と可能な限りの自立歩行ができるように努めている。		